

転生ゴブリン

前世で童貞
チート体
強くて

んだ俺は
狂しまくる

女狩人調教日誌

後編

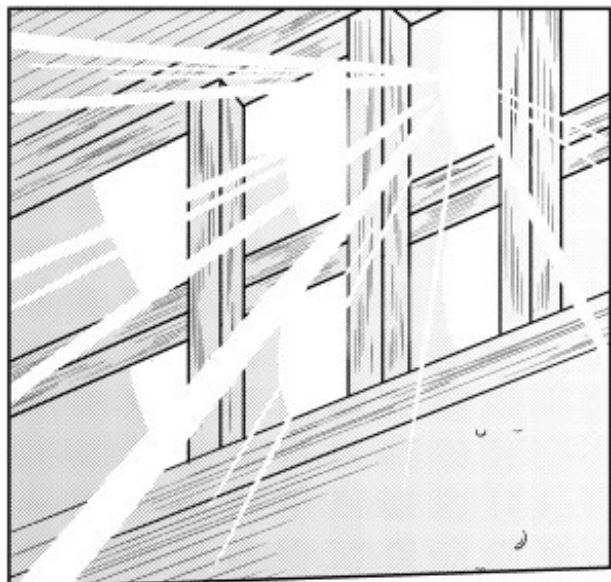
甘イキ
まん
敏感

本編

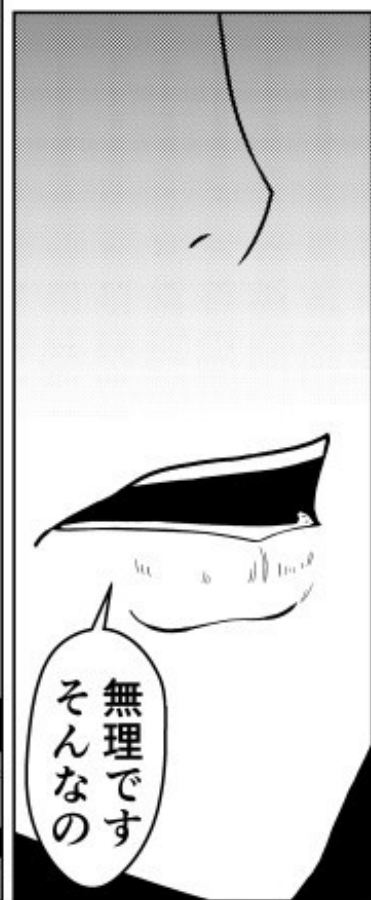
34P













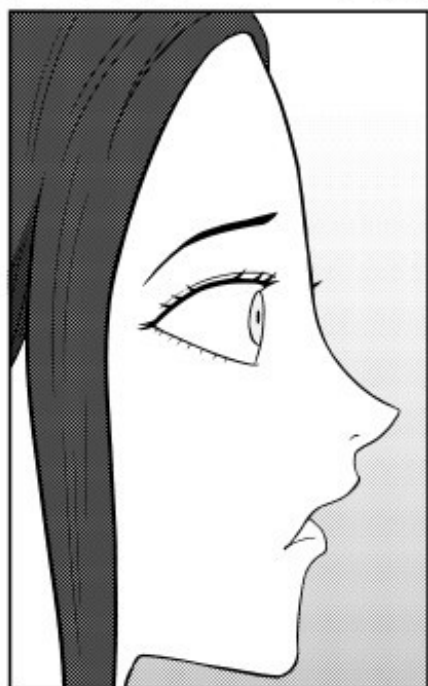
相手はゴブリン
なんだぞ!?

そんなの
おかしいだろ!



いや…
でもっ!!

チゅ



だったら何です?

ゴブリンの
相手をするなど
見世物小屋以下の
所業だろ！

街に行けば…
ここから逃げれば
そんなのを相手するより
良い事が沢山あるんだぞ!?

無いですよ

私にとって
ご主人様に奉仕する以上の
幸せなんてないです

教えてもらったんです
本当の幸せと愛を

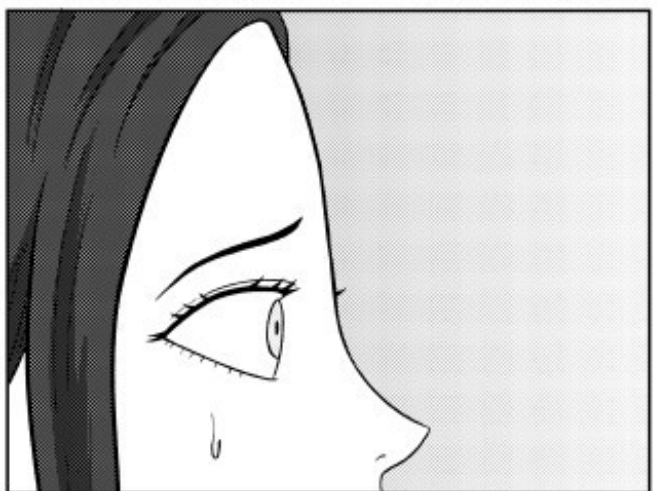
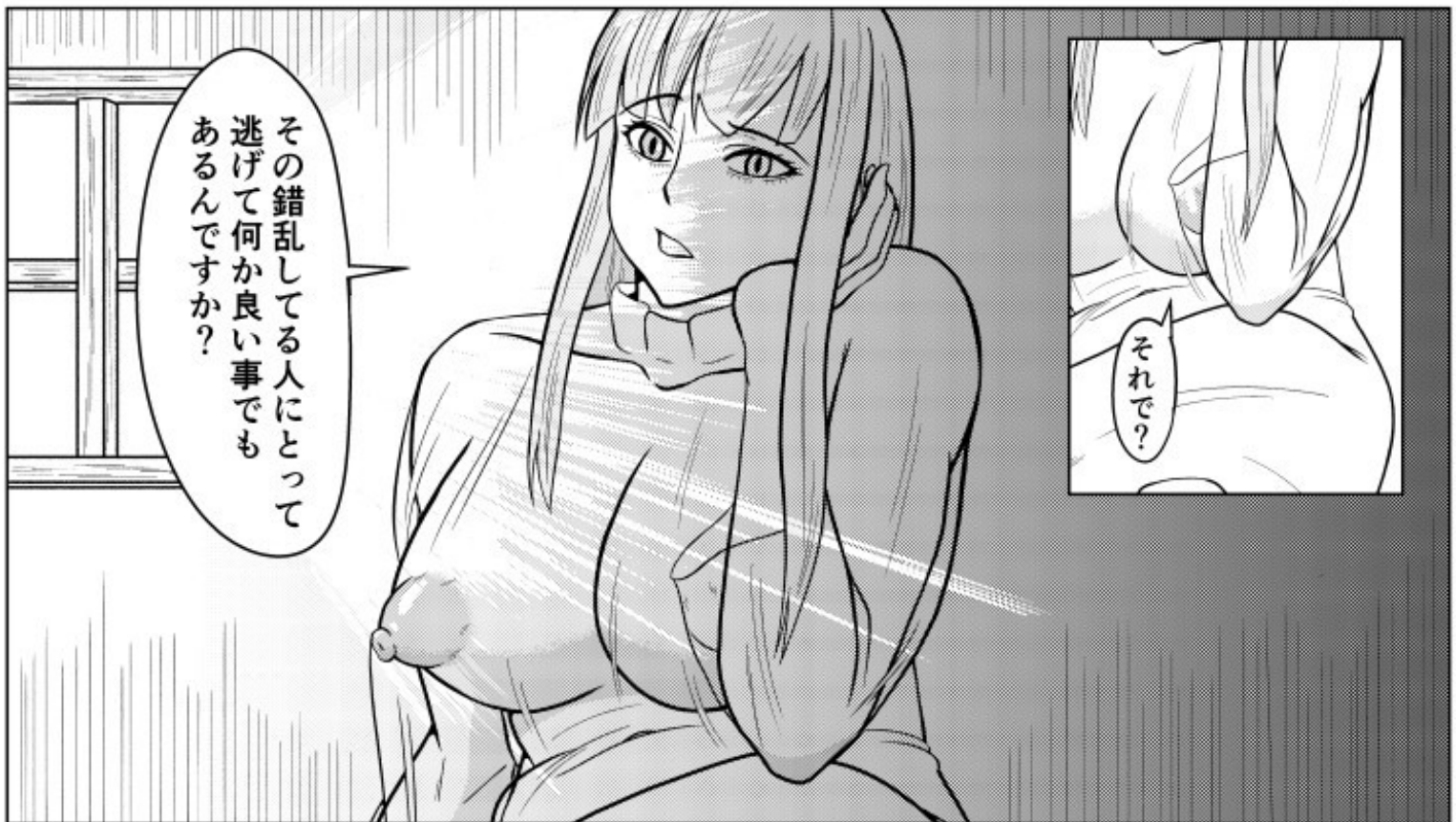
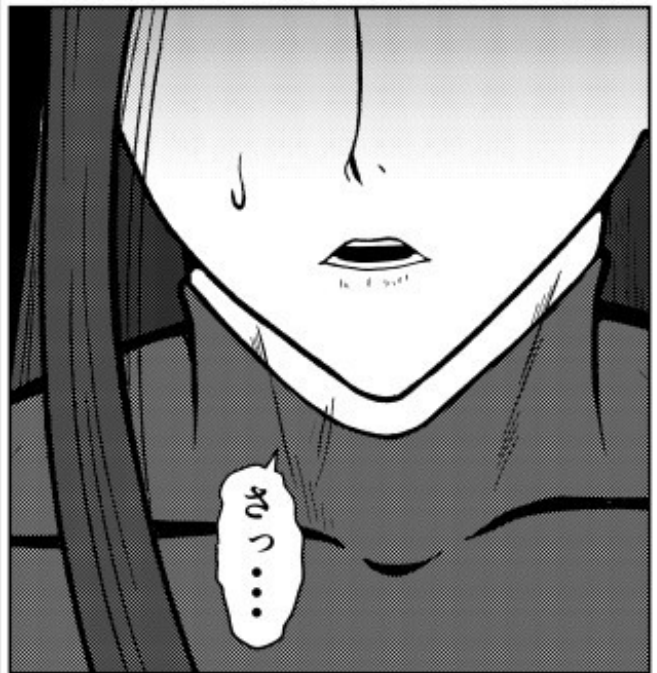
取り上げないで下さい

ご主人様に会う前の
空虚な私に戻さないで下さい

あ、分かった

そうやって嘘ついて

ご主人様を
独り占めにする気なんだ



脱走しようとした事でお仕置きを受ける事になった



ゴブリンの先走り汁には媚薬効果がある

こいつのそれをー



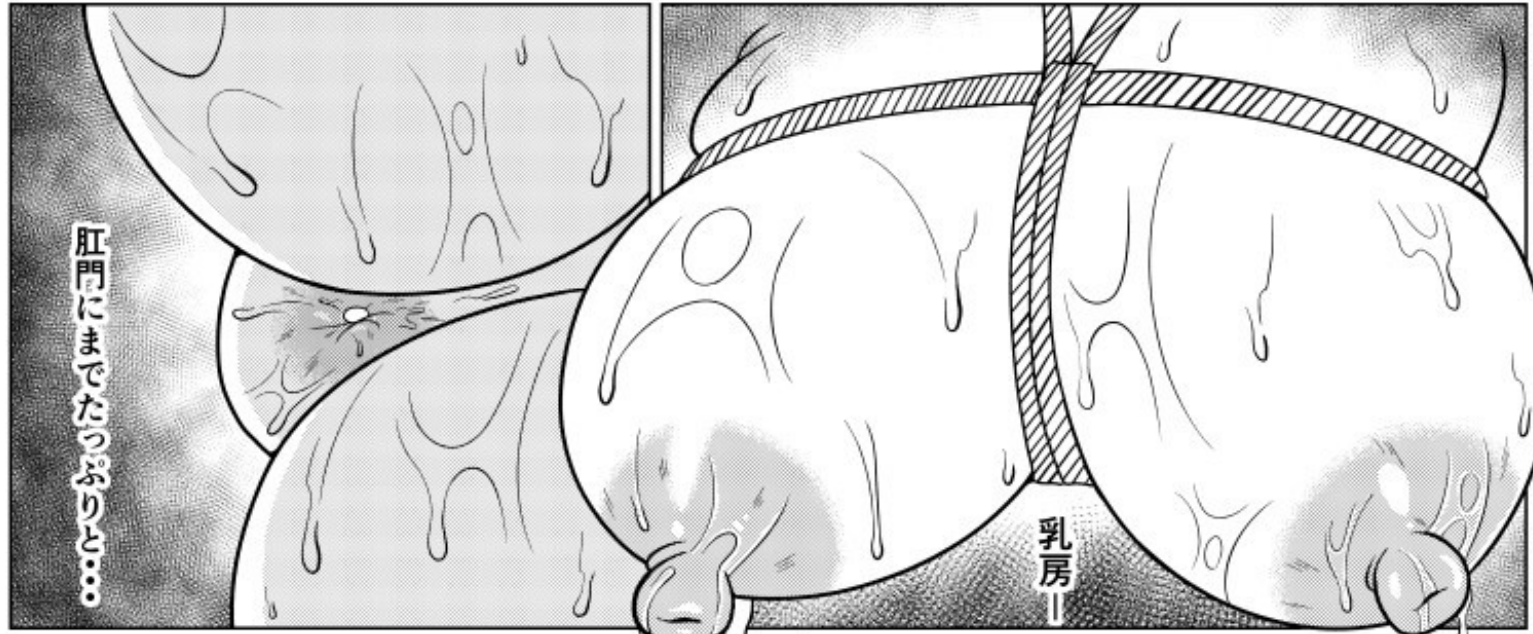
私は体中の敏感に部位に塗りたくられた





クリトリスに膣内

子宮口はもちろん



肛門にまでたっぷりと...

乳房



あとちょっとで
絶頂には至らない

ヒクン



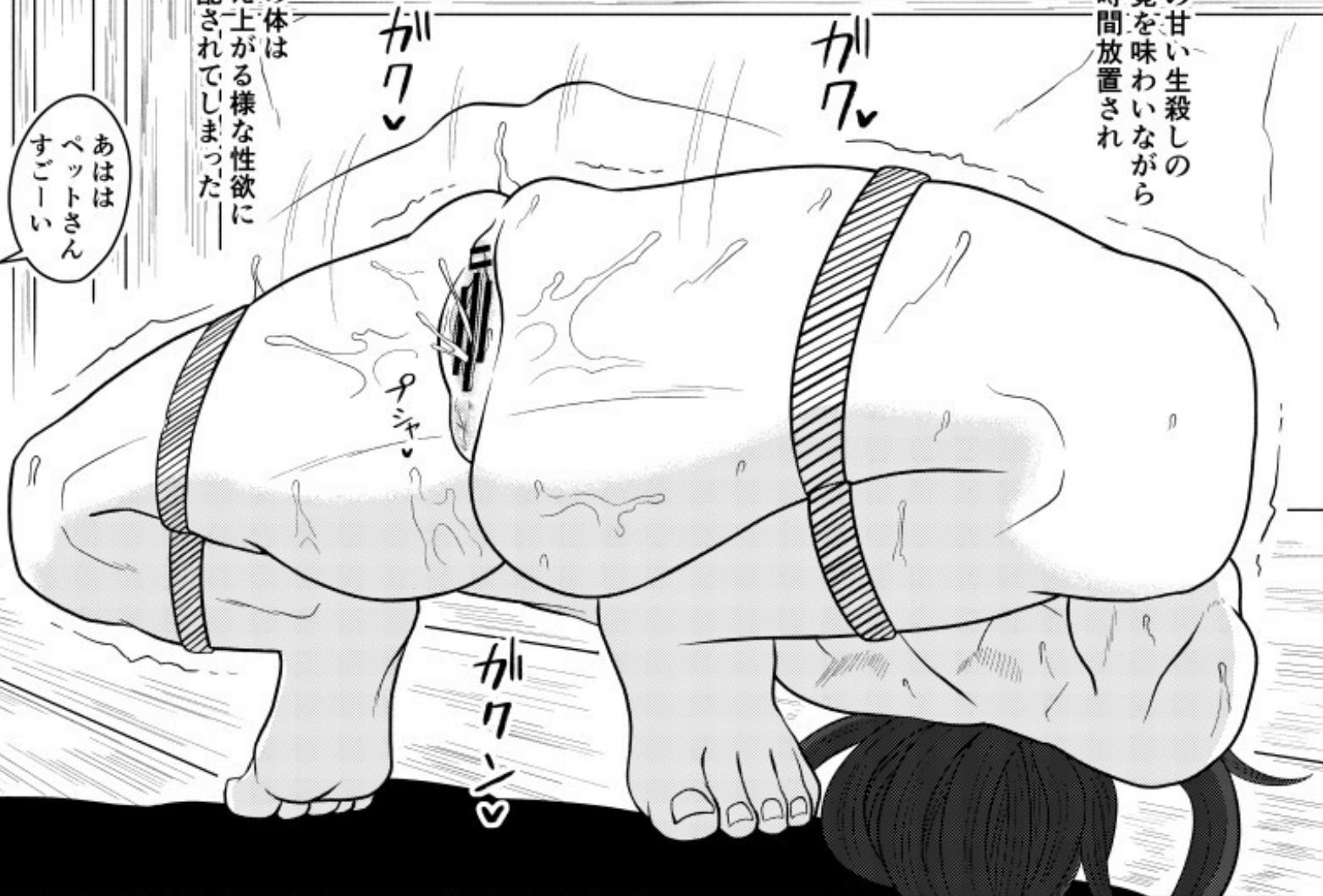
媚薬の効果は凄まじく
ずっとムラムラして
快感が迫っているのに

カクツ
カクツ

その甘い生殺しの
感覚を味わいながら
長時間放置され

私の体は
燃え上がる様な性欲に
支配されてしまった

あはは
ペットさん
すごーい



奴は娘と激しく
愛し合う様を見せつけ

かっ

かっ

おお
おっ



目の前でちんぽを
お預けするなどし
私は切なくて
たまらなくなった





一日中ちんぽの
事しか考えられ
なくなつた



ちんぽを頬張る
妄想をする等し



終いには
まんに思いっきり
突っ込まれたり

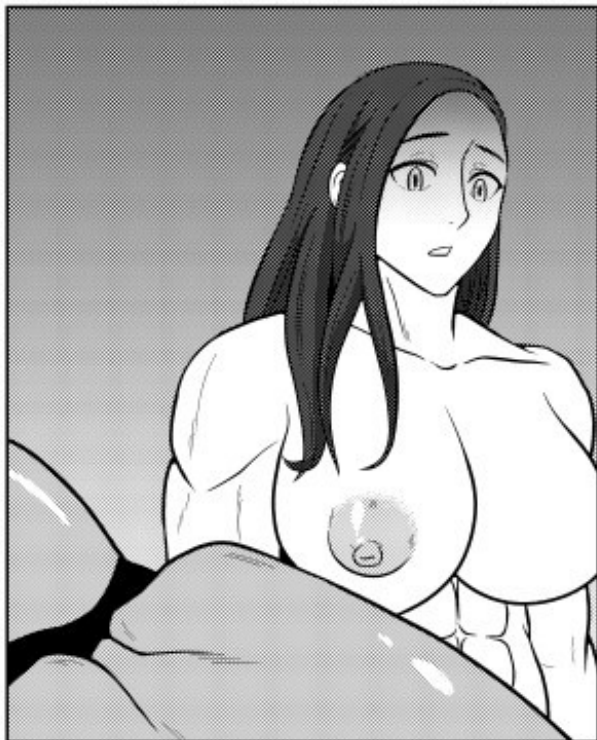


そしてどれくらい
経つたのだろう。。。



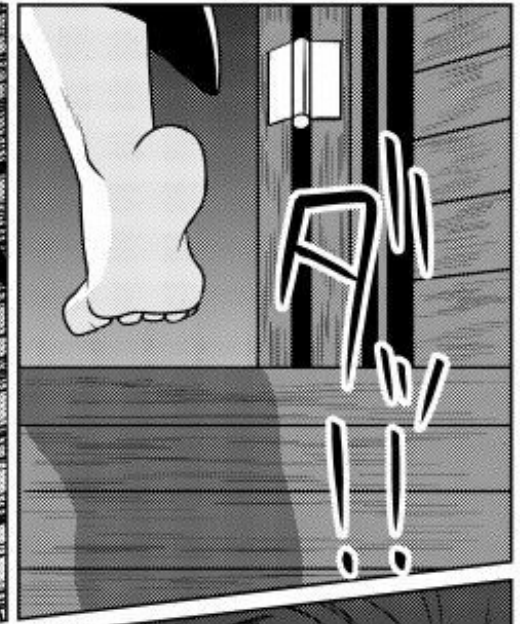
どうやら気絶して
いたらしい……

そして私は
幸運な事実気が付いた





私はすぐさま
あの家から逃げた



あの娘を
気に掛ける事も無く

もし方がゴブリンが
目を覚ましたら……
この屈辱にまみれた日々が
ずっと……



私は走った

ゴブリンへの
恨みも忘れ



途中でまんこと
子宮が疼いてしまい

私は何度もへたり込んだ

ハイ





どうやらあの媚薬の
効果がまだ残っている
らしい

突発的にやってくる
性感帯の疼き……



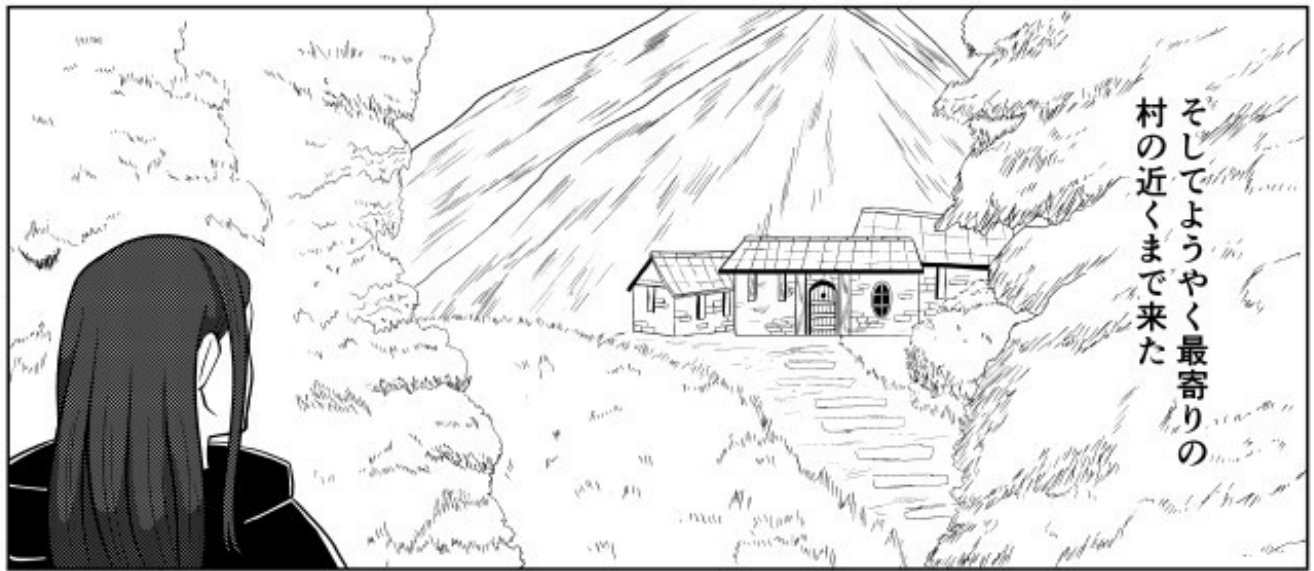
その度に私は
自分で処理する事を
余儀なくされた



甘イキ汁を噴き出す
まんこは歩けないほど
敏感になっており



弄ってくれと
自己主張してくる乳首は
痛々しいまでに勃起している



そしてようやく最寄りの
村の近くまで来た



村に着いたら助けを呼んで……
あの娘も助けよう……



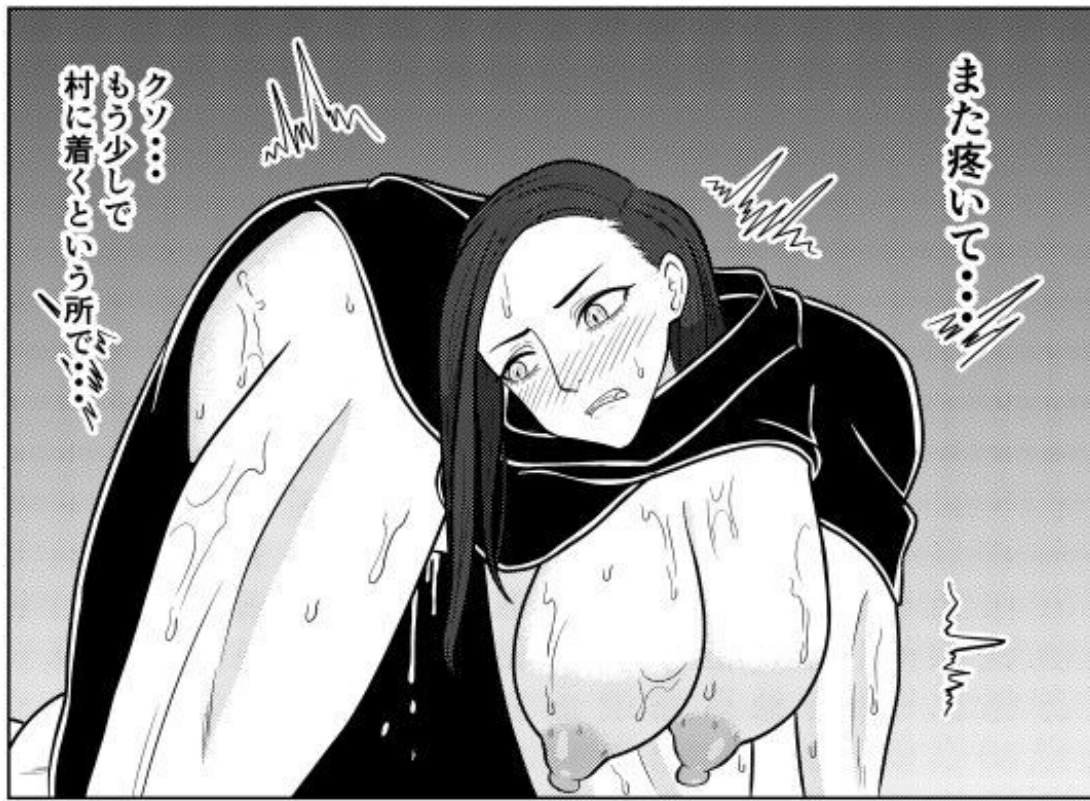
ああ、やっと解放されるのだ……

村が見えた私の心に
喜びと安堵の念が溢れる



ゴブリンは妙な術を使うが
頭数が揃ってれば……

どろり

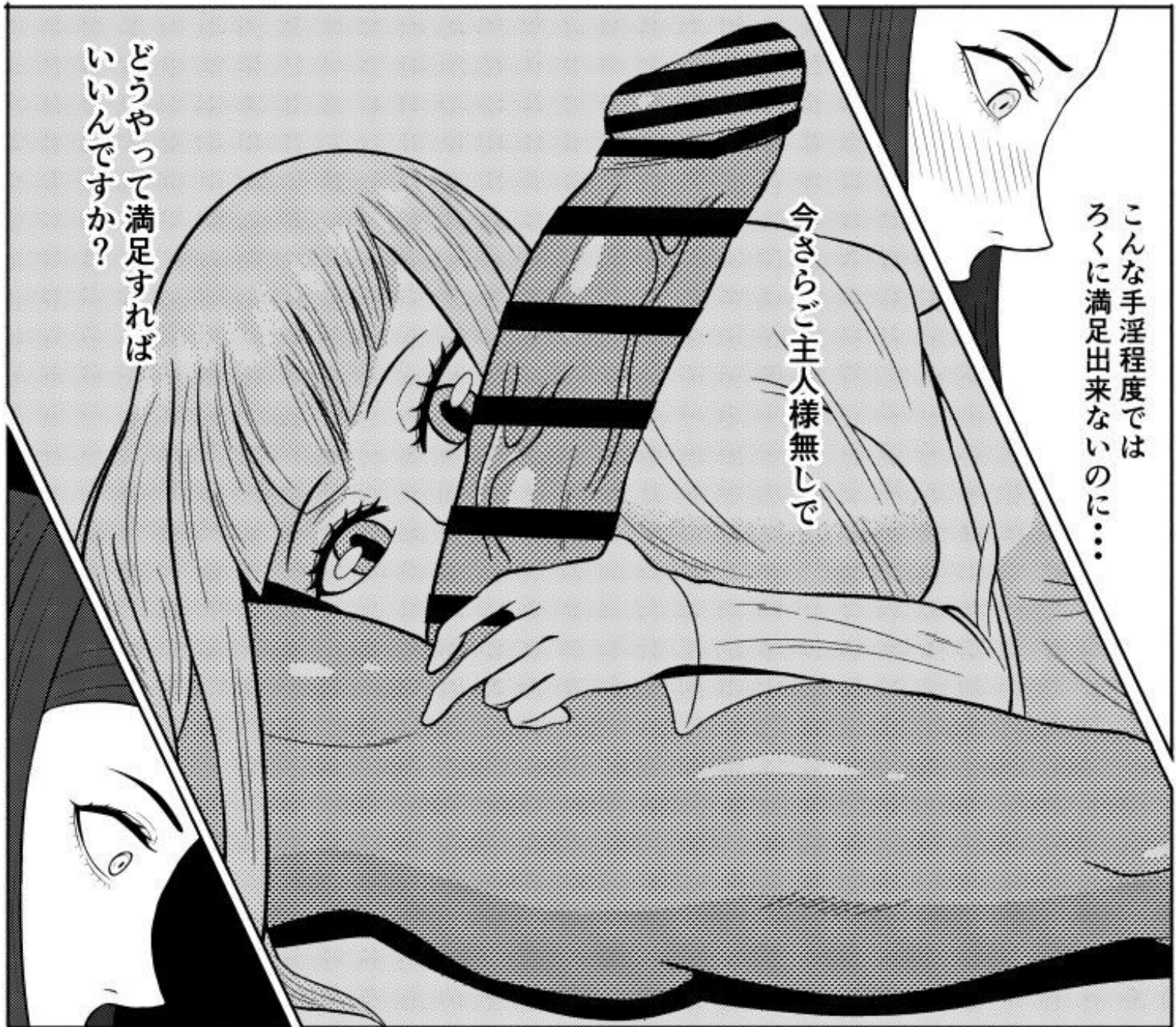


クワッ…
もう少しで
村に着くという所で…

また疼いて…



うぐっ!!



どうやって満足すれば
いいんですか？

今さらご主人様無しで

こんな手淫程度では
ろくに満足出来ないのに…



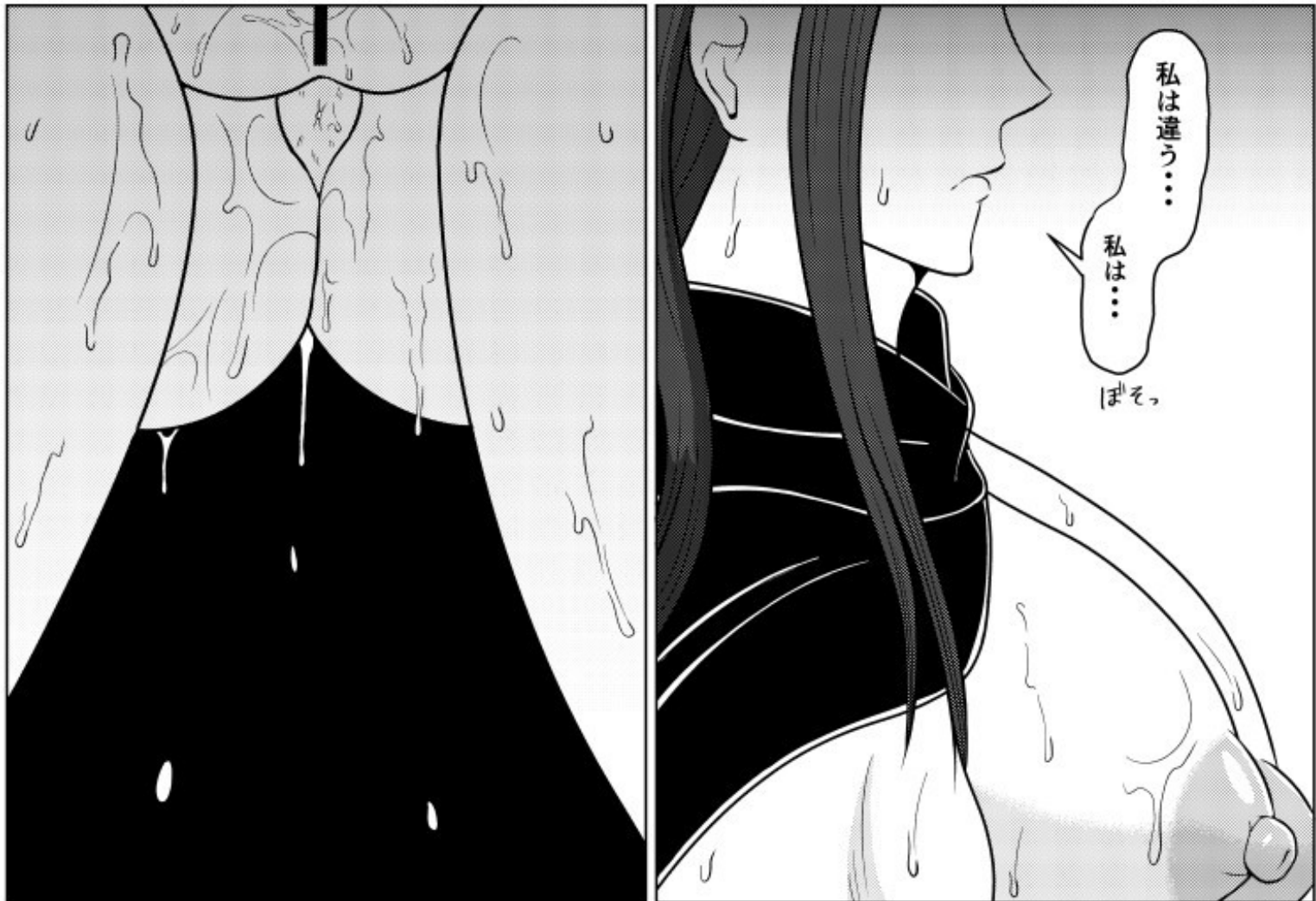
こんな遅しいちんぽで
慰めてもらわないと
夜も眠れないですよ



え……いや……
何を考えている？

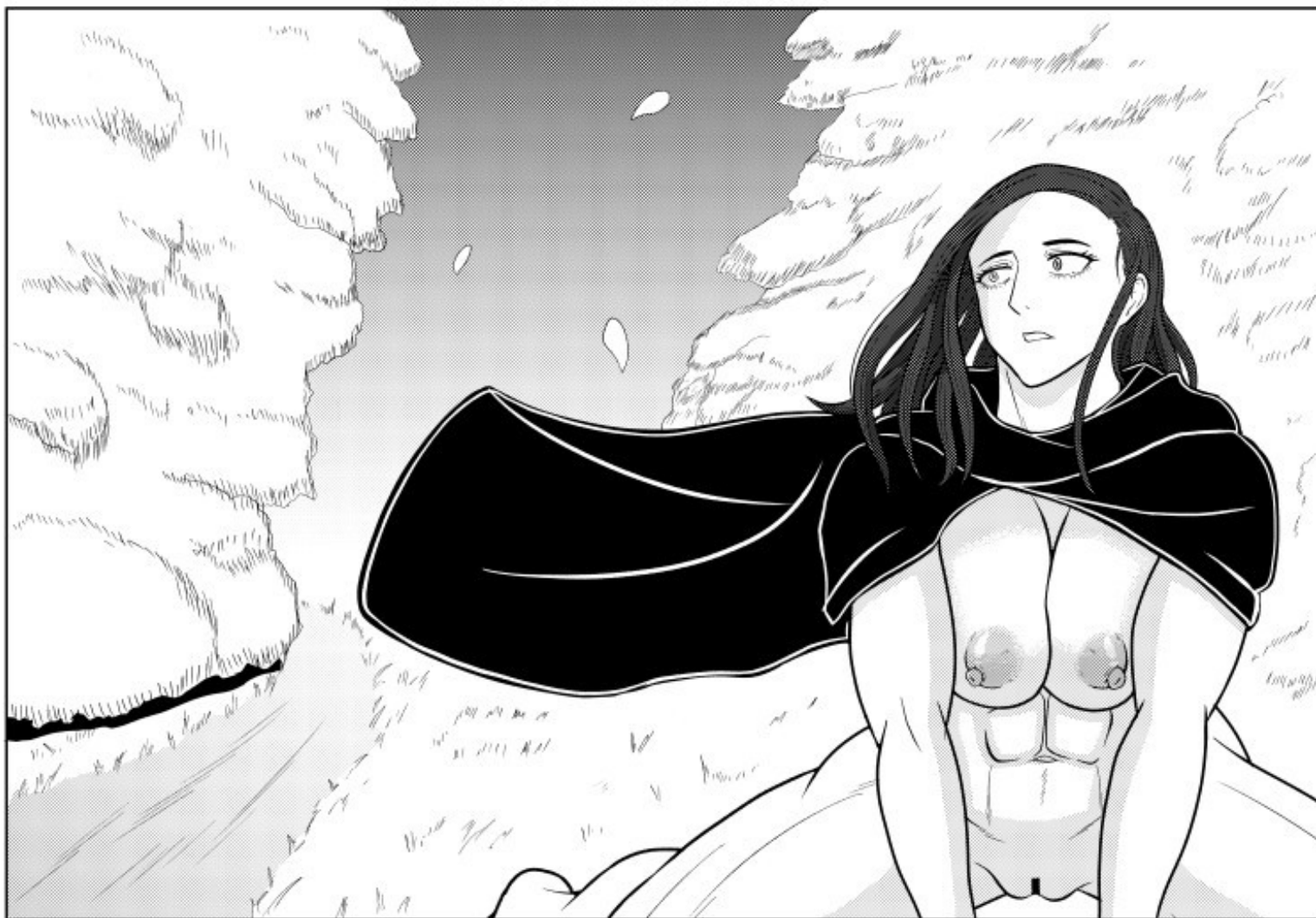
向こうには
村があるんだ……
あそこに行けば
いつも通りの平穏が……

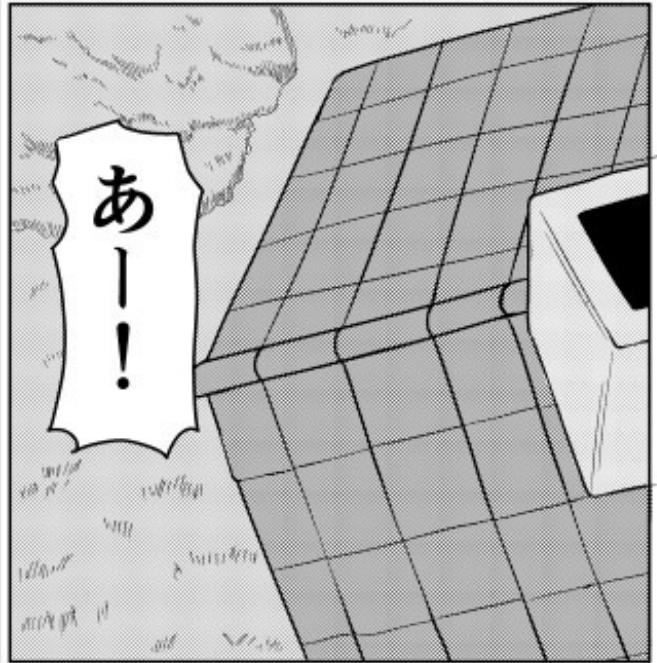


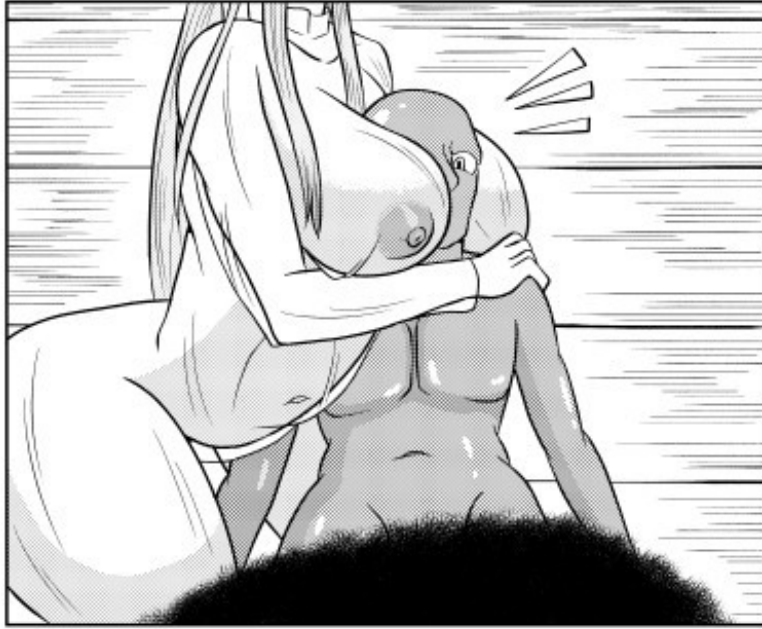
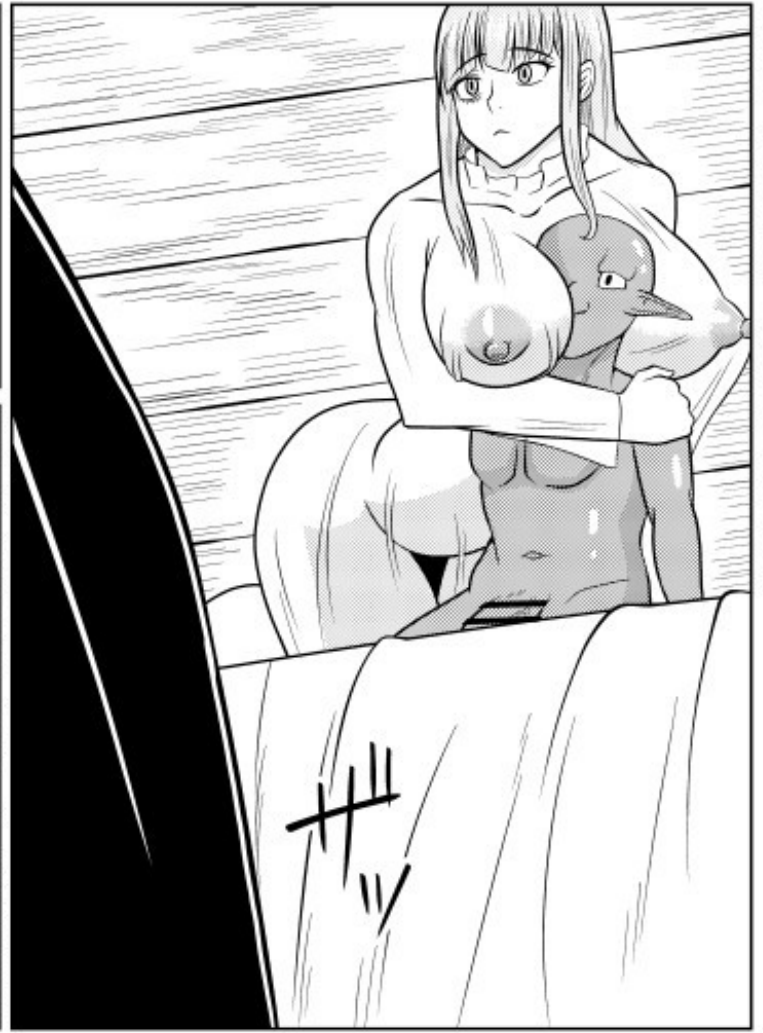


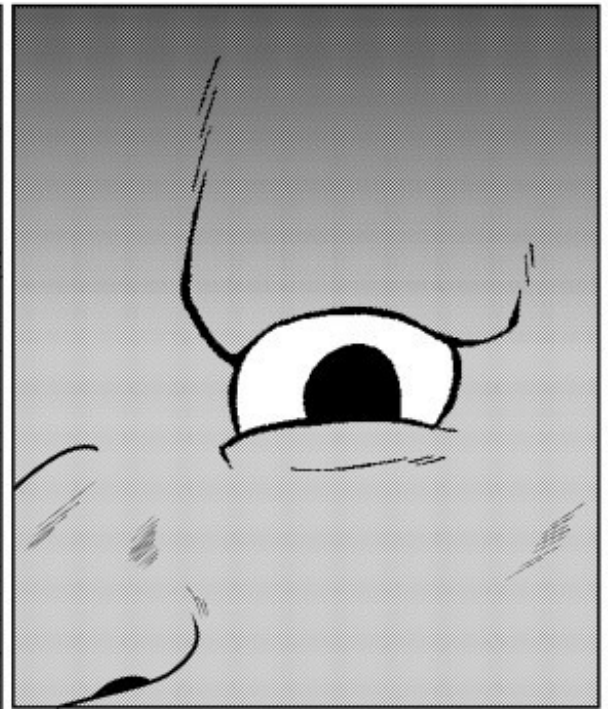
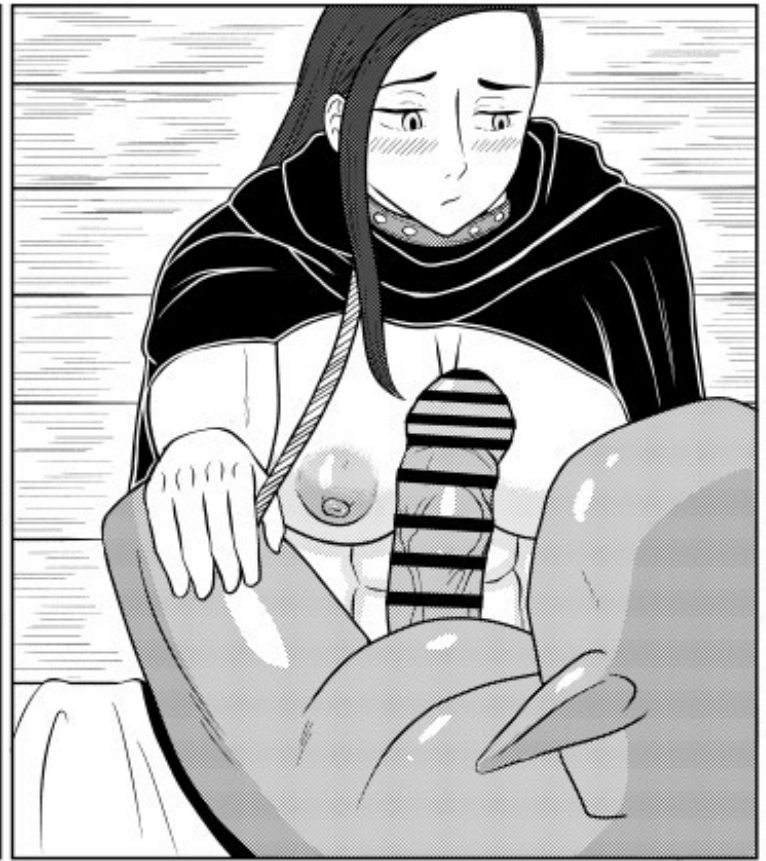


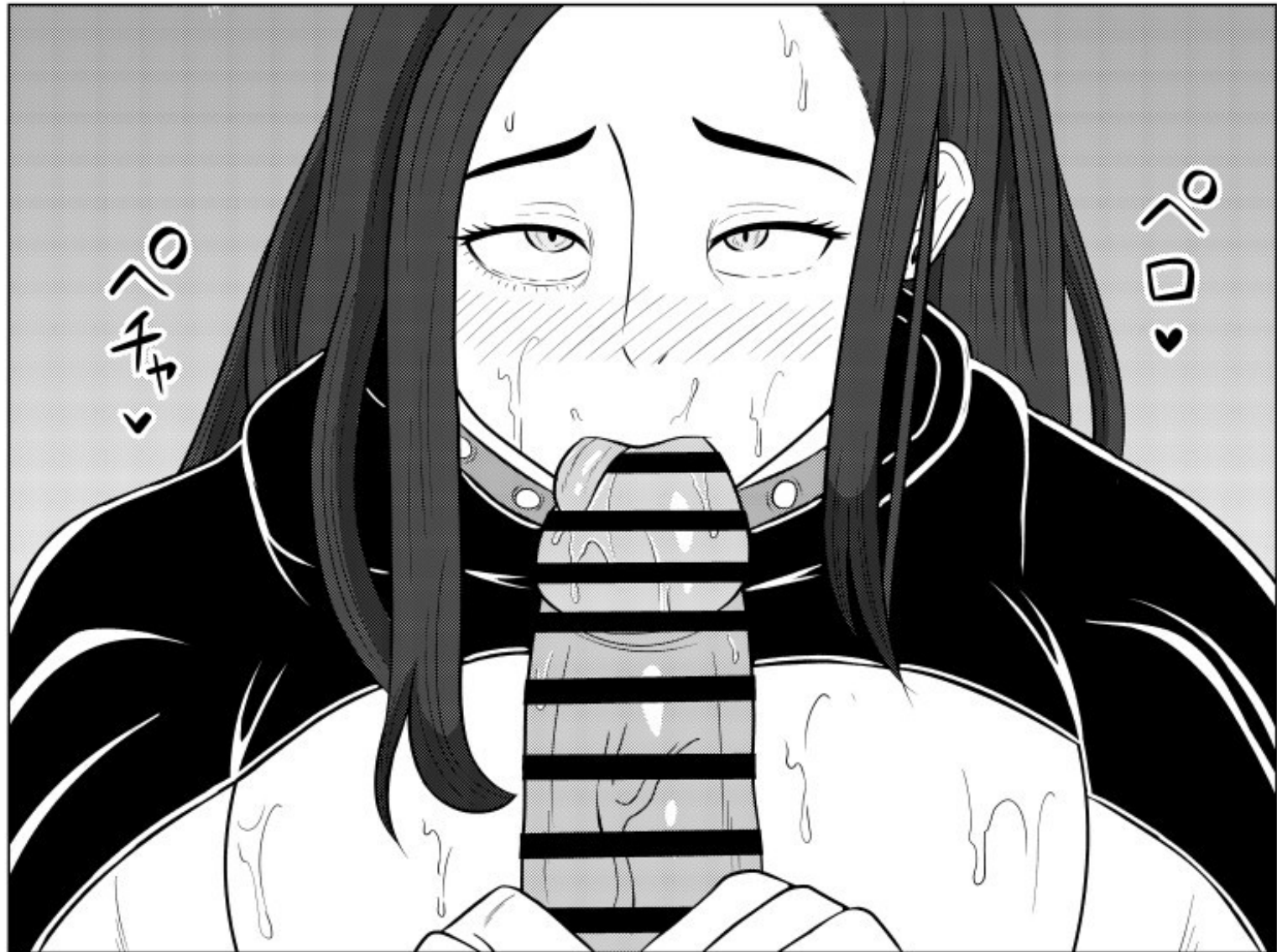
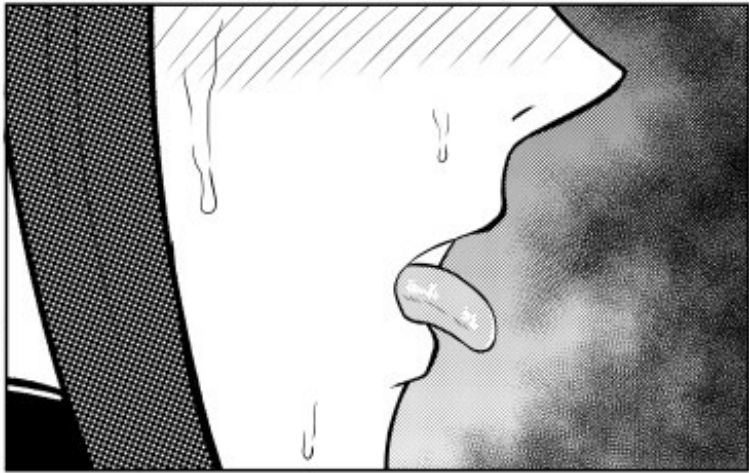
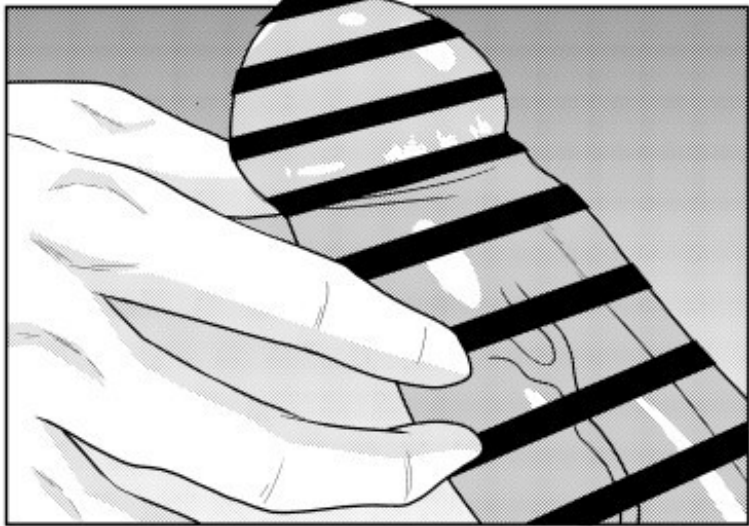
『君の本当に
やりたい事は何?』

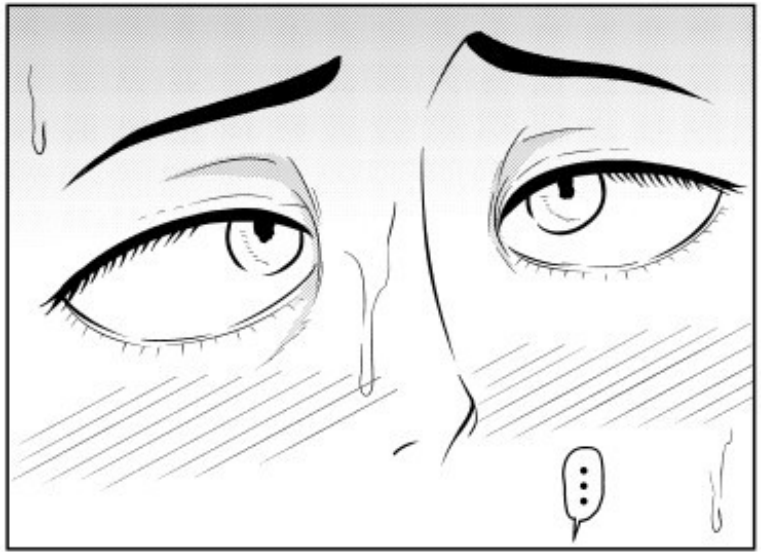
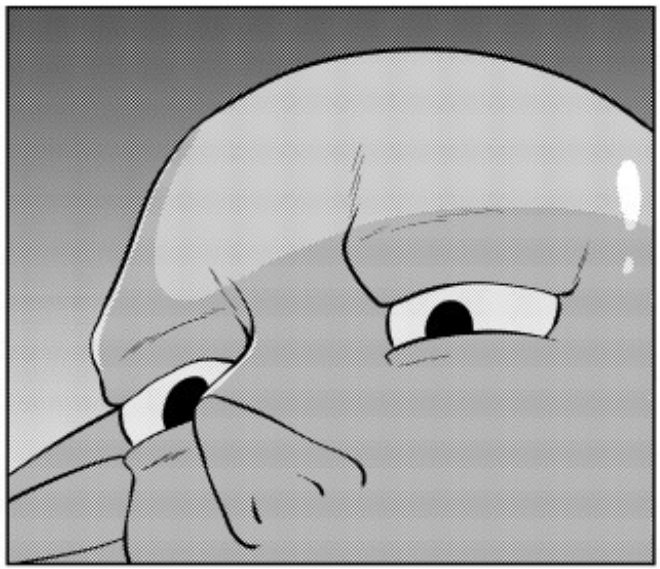


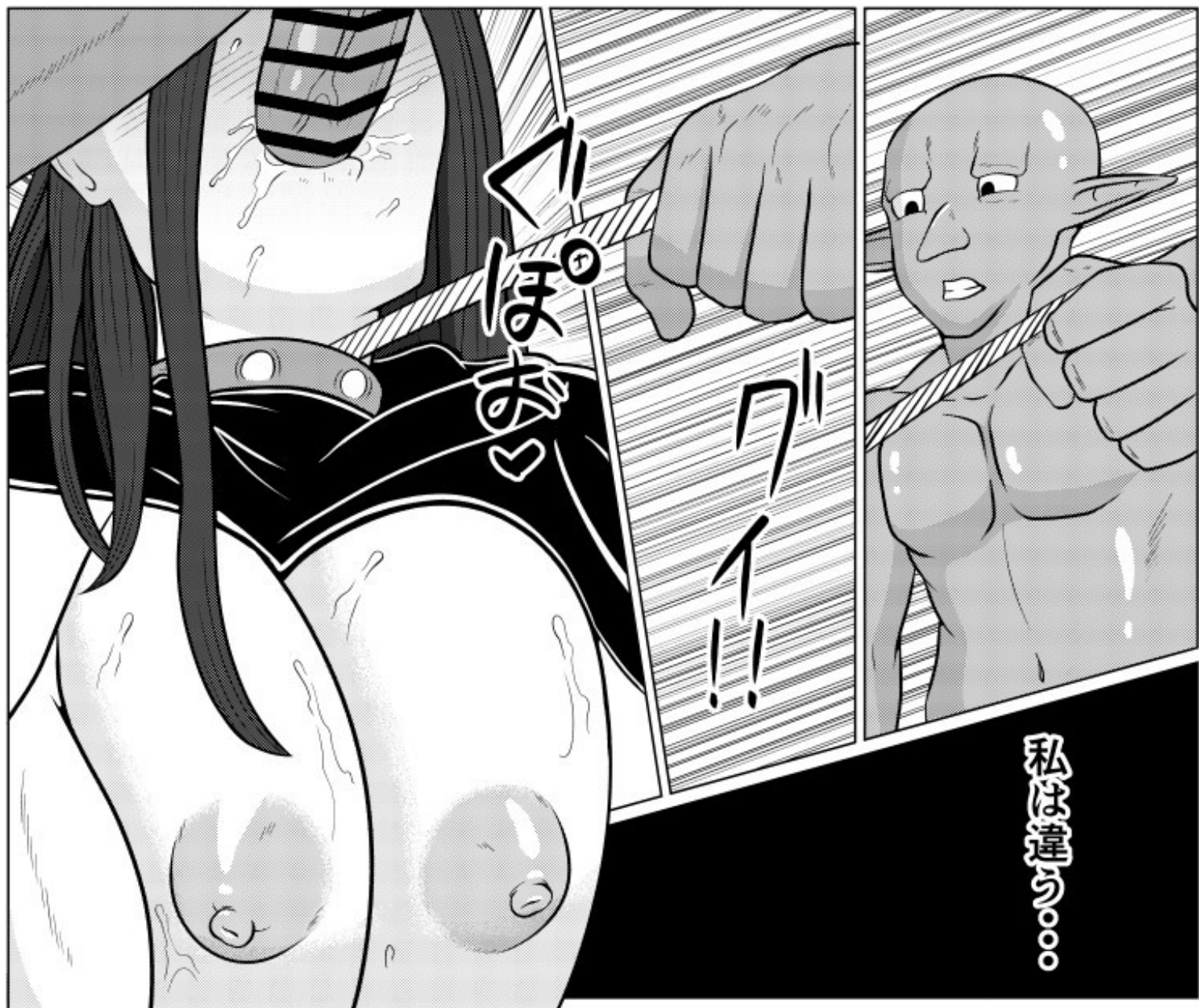












私はここに
帰りたくなった
わけじゃない……

村に行こうと思えば
行けたのだ

それをしなかったのは
ただ……

この娘が心配だったからで……

助けを呼んでる間に
逃げられては困るし……
そう……！
助けるために
この地獄に戻ったんだ……

この汚らわしいゴブリンは……
いつか必ず殺す……
絶対に……



あっ
あっ

はあっ

あっ
あっ

だから...



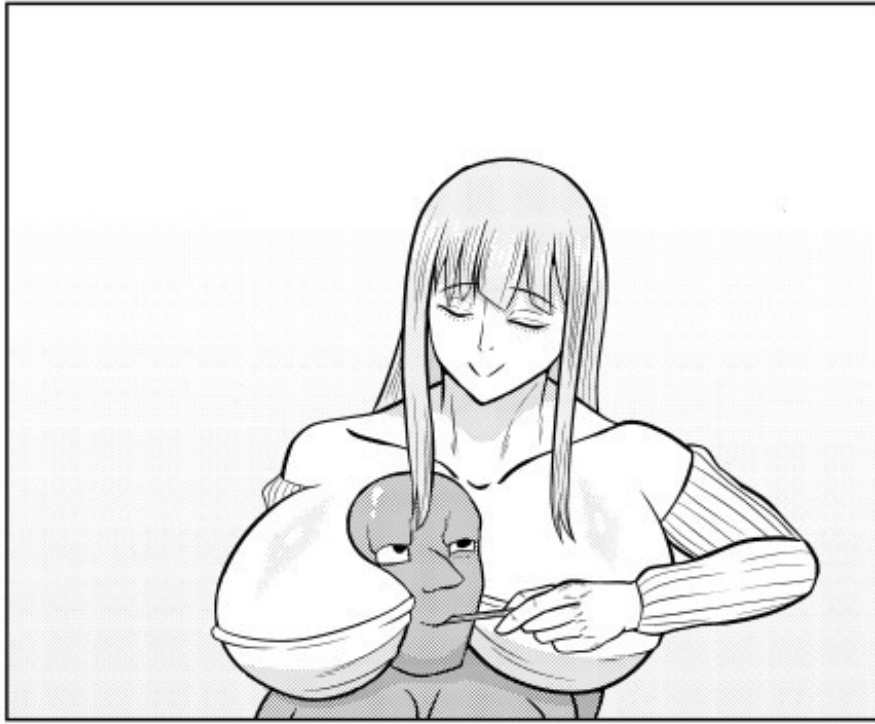
ブク
ブク

キッ
キッ
キッ

だから私は羞む...



あ
あ
あ



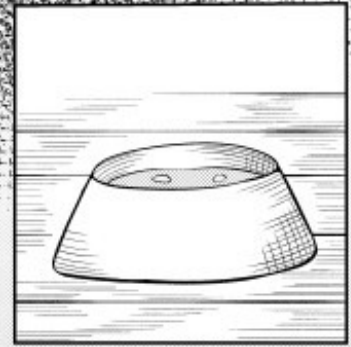


無策のまま挑んでも
あの妙な魔術で
好き放題されるだけだ

すぞぞぞぞ

こいつを
殺すには—

完全に油断させて
魔術を使わせない
ようにする必要がある



うん...

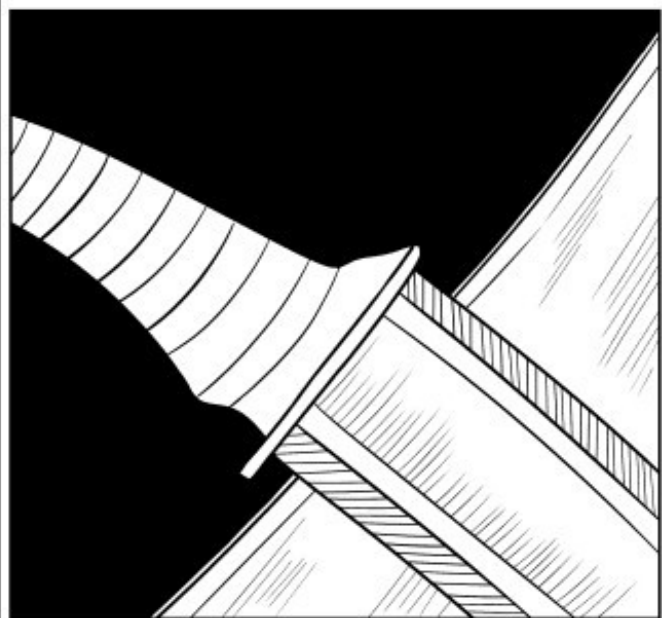
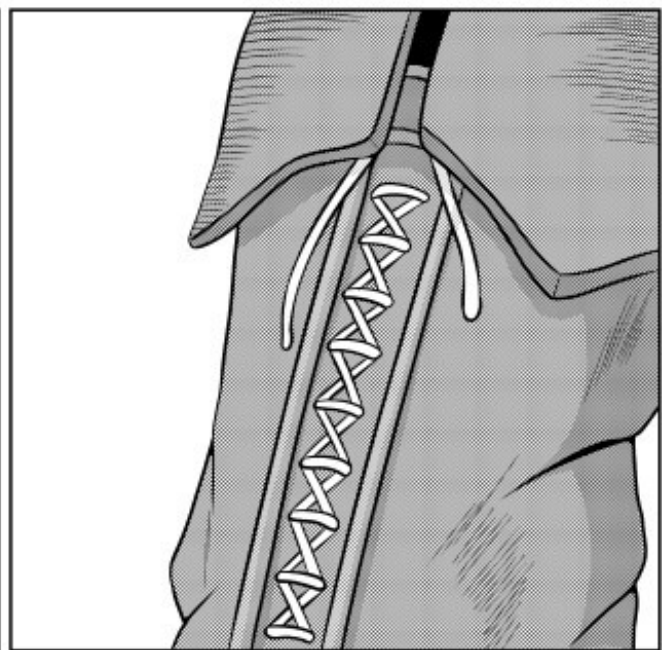
だからこれはただ
油断を誘うための
作戦なんだ

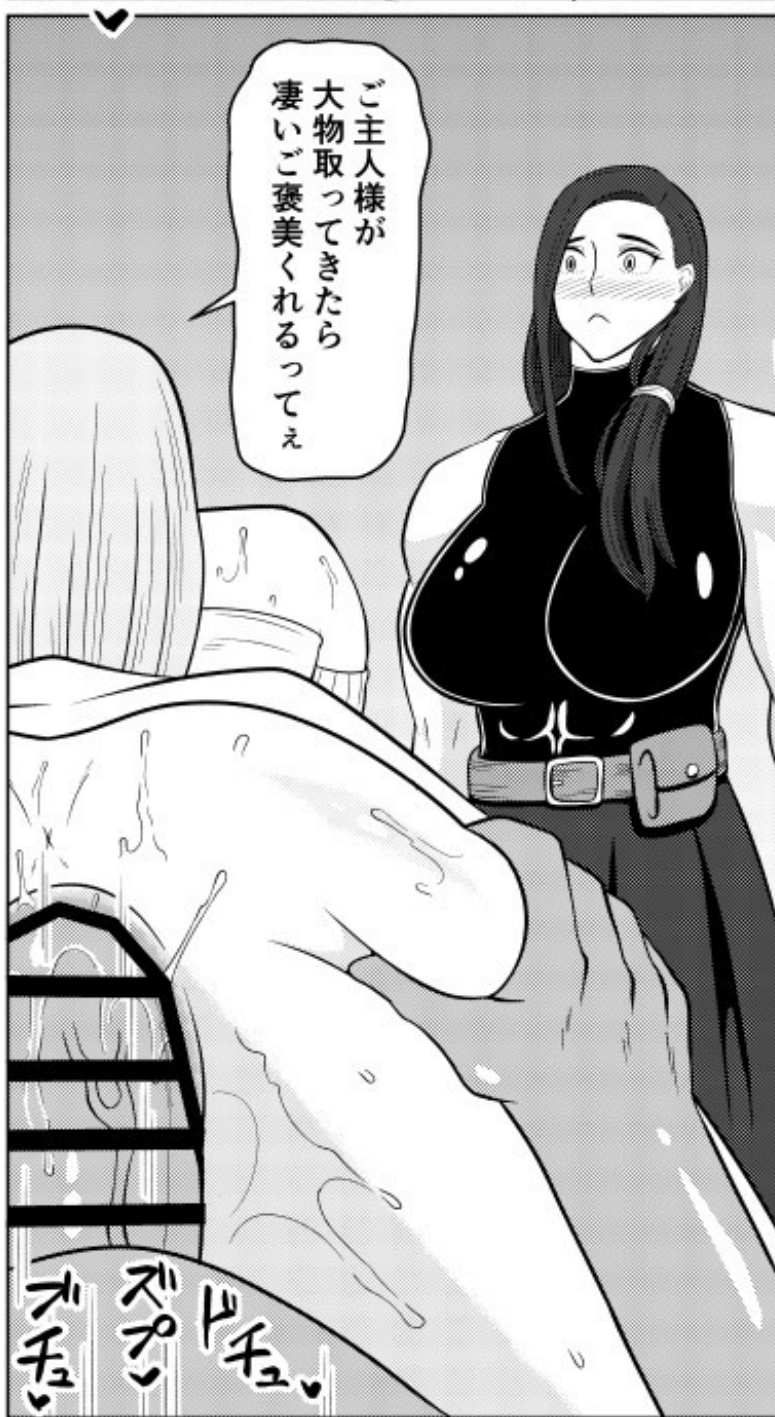
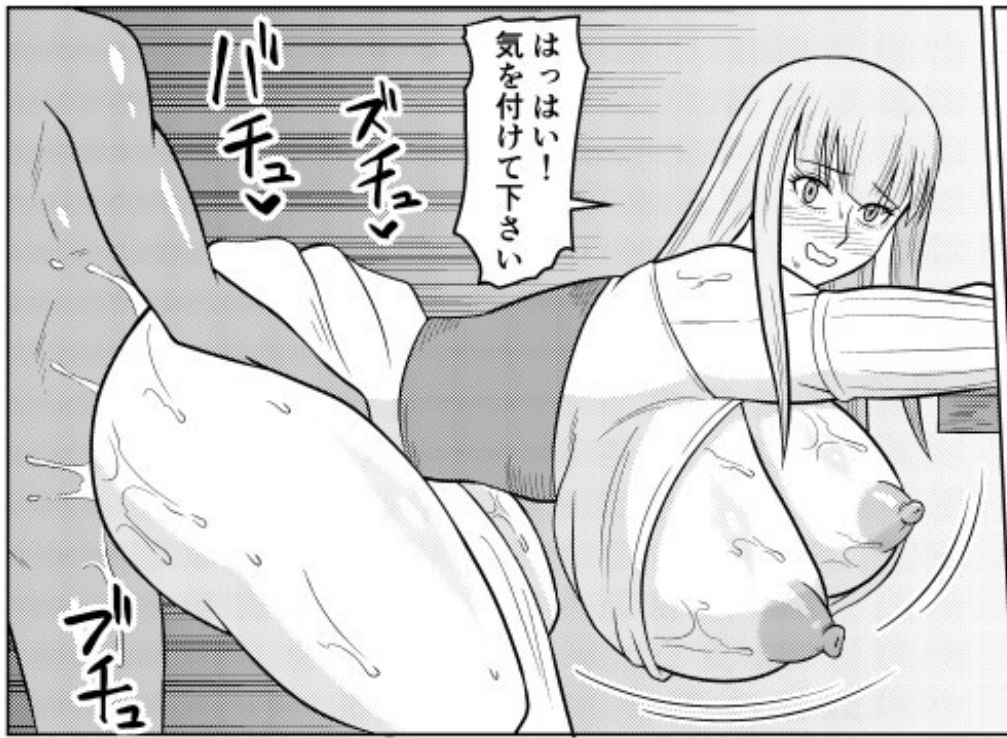
ポタ

ポタ

ポタ





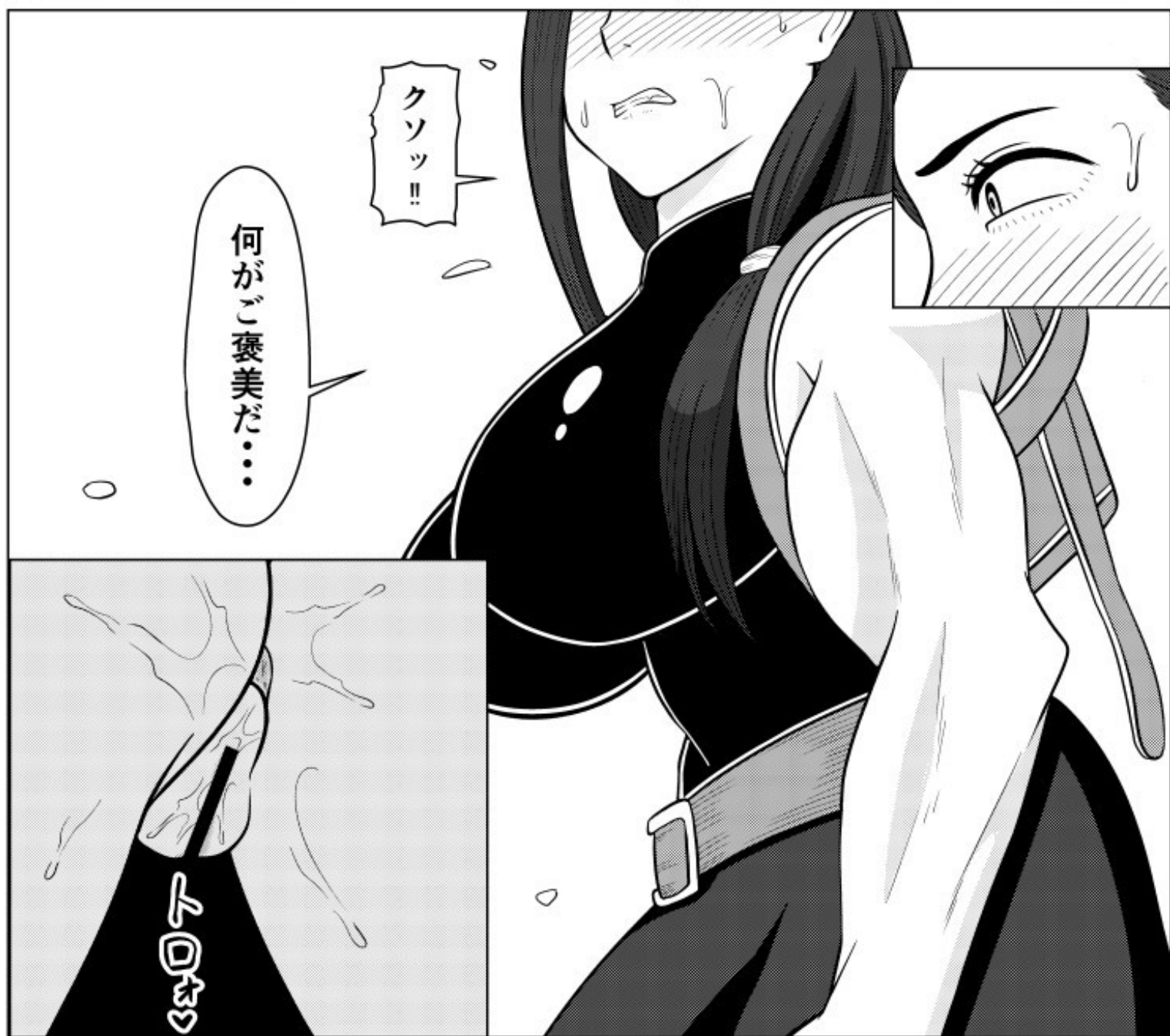




そんな物はいらん!!



なっ...!?



クソッ!!

何がご褒美だ...

トロキ